

地域コミュニティ協議会名称

庄瀬地域コミュニティ協議会

活動名称

庄瀬農村公園祭り

世帯数

約670世帯

活動内容

庄瀬地区のメインイベントとして定着し、平成20年で10回目を迎えました。各団体、有志が集まりアイデアを出し、協力し合って作り上げるお祭りです。

祭りは庄瀬小学校児童による相撲大会から始まります。相撲大会は小学校PTAと庄瀬地区青少年育成協議会が中心となって企画・進行し、夏休み中の練習にはスタッフがボランティアで指導にあたります。また子どもたち手作りの四股名ののぼり旗が公園内に設置されます。

会場内では商工会や有志が出店し焼きそば・焼き鳥・カレーなどを販売します。相撲のあとはステージを中心に「楽しもって広場」とし、地元の保育園児から老人ホームの入所者まで様々な年代の方々による歌や踊りの披露が行なわれ、平成19年からは「にいがた南区総踊り in 庄瀬」と銘打ち区内のよさこいチームからも協力していただき踊りを披露していただいています。また地元商店街の協力によりお楽しみ抽選会も行なっています。

祭りの締めくくりには花火を打ち上げます。地区内外の大勢の方々よりご協力をいただき、年々打ち上げ数も増えています。平成20年はスターメインが7発上がりしました。花火大会の警備には自治会、消防団、交通安全協会、防犯協会の委員が総出であたります。



チビっ子相撲大会



にいがた南区総踊り in 庄瀬

実績・効果

庄瀬地区にはなくてはならないイベントとして定着しました。地元住民だけでなく地区外の方、夏休みで帰省した方たちにも楽しんでもらえるような祭りにするべく、さらに発展させていきたいと思っています。

地域コミュニティ協議会名称

臼井地区コミュニティ協議会

活動名称

地域でふれ愛まショー

世帯数

約 1,000 世帯

活動内容

臼井地区コミュニティ協議会構成団体の一つ、白蓮（しらはす）コミュニティ協議会の活動を紹介します。平成18年5月臼井地区コミュニティ協議会が設立される10年余り以前から限定地域で活動していた組織で、平成7年4月に臼井地区内2つの小学校が統合し廃校となった施設を拠点に独自の地域活動を行っています。

その主要な事業として夏は子どもたちを主体にした夏祭り「白蓮の夕べ」を行い、冬期は高齢者を対象にした新春お楽しみ会「白蓮歌謡ショー」を開催しています。

平成20年で第15回目を迎え特にPRしていない中、地区内外の人たちの多くが参加するようになり盛況を博しています。その他、一年を通しカラオケクラブ、生け花教室なども運営し地域のふれ合いの場として取り組んでいます。



小中学校の子どもたちを主体にPTA、保健会などがスタッフとなり、毎年8月第1土曜日に開催しています。



地元カラオケクラブとプロの歌手を招いて毎年2月の第1日曜日を開催日としています。

実績・効果

この活動にかかる主要財源は、廃校後に整備された地区公園管理委託金（新潟市）を得た中から有効活用しています。地区自治会からの負担等に頼らず自主的な運営に努めていますが、当面の問題としてスタッフの担い手不足という課題はあるものの自主独立化していることで評価され、地域に根ざしたイベントとして広く受け入れられています。

地域コミュニティ協議会名称

大郷地区コミュニティ協議会

活動名称

農産物を活用した地区民地域交流活動

世帯数

約500世帯

活動内容

大郷地区農産物品評会

大郷地区は、果樹・野菜の栽培がとても盛んな場所です。例えば、梨・ぶどう・トマトなど。

そこで、年に一度、地域の皆さんより自宅で育てた農産物を持って集まって頂き、品評会・即売会を開催しています。

毎年、とても好評で、販売では時間前の予約が殺到します。一般的な売り場等では見られない大きい梨や真っ赤なトマト、みずみずしい白菜など多数出品されています。平成20年度は試食コーナーを設けました。

見に来られる人たちは、子どもからお年寄りまで幅広い世代です。出品農産物を見ていろんな話しができるとてもよい交流の場になっています。



実績・効果

農産物によって、地区民の世代を超えた交流の場になっていますし、地区全体の元気につながっていると考えています。

地域コミュニティ協議会名称

鷺巻地区コミュニティ協議会

活動名称

世代間交流と地域の伝統行事継承活動

世帯数

約660世帯

活動内容

鷺巻地区は、特色ある伝統行事が少ない地域であり、また、子どもたちの地域参加が少ないこともあって、子どもたちが、地域の伝統行事や暮らしにふれ合う場づくりに努めています。

その一つが、小学生の「宮のぼりばやしクラブ」活動です。かつて笛と太鼓のお囃子で神社のお祭りが行われていた「宮のぼり」の地域の伝統行事を長老たちの指導で子どもたちが復活。今では、各お祭りに実際に参加して演奏しながら練り歩いています。子どもたちの頑張る姿が地区民に歓迎されています。

また、地域の高齢者が、小学生に笹団子作りを教えて、地域で育った食文化を通じて世代間交流を行っています。花いっぱい活動では、保育園児からも花の植え込みに参加してもらい、幼いながらも体験を通じて心に残るものを期待しています。



実績・効果

「宮のぼりばやし」の先輩は大学生になっており、参加してみたいとの声もあります。指導者の高齢化もありますが、継続したいものです。

コミュニティ協議会を結成して間もないですが、世代間交流を行いながら、地域づくり意識を一步步醸成していきたいと思えます。

地域コミュニティ協議会名称

根岸地域コミュニティ協議会

活動名称

地域活性化事業 地域交流イベント(あやめまつり)

世帯数

約 1,000 世帯

活動内容

現在、地域生活センター脇に植えられているあやめは平成11年7月、根岸道路にある桜と共にあやめを根岸の観光資源とし、地域農業の振興と観光的景観、環境整備等を行い根岸地区の新たな特産・シンボルとして地区の活性化になれば、との思いから地域の皆さんの手により新発田五十公野公園より株分けして植えられたものです。

体育系事業と文化系事業両方の要素が含まれた総合的な事業とし、老若男女問わず、幅広い年齢層においても楽しむことができるまつりとし「1年に1度の根岸の大祭」第1回根岸地区あやめまつりを平成14年6月に開催しました。来場者が増えるにつれ、あやめまつりの規模も大きくなってきています。

あやめまつりでは、根岸小学校トランペット鼓隊、白根北中学校吹奏楽部による演奏でオープニングを飾り、自治会等による縁日出店、ステージイベント、自治会親善スポーツ大会などを行っています。イベント同日、犯罪防止をPRするパンフレット配布やAED講習会、災害時焚きだし訓練など防犯防災に関するイベントも行っています。

平成20年6月、第7回を迎えたあやめまつりは、来場者も増え約1,000人が訪れました。



あやめまつりのオープニングを飾る根岸小学校トランペット鼓隊



あやめ園にたなびく鯉のぼり

実績・効果

今年度は、新たな企画としあやめ園内に鯉のぼりを飾り来場者の目を惹きました。イベント以外の日にもたくさんの方があやめ園を訪れ、根岸地区の観光場所のひとつとなりました。毎年、イベント内容に変化を持たせながら、多くの住民から参加してもらえる魅力ある地域づくりを目指しています。

また、地区民と共にあやめを育てることで地域交流・地域活性化に努めていきたいと考えています。

地域コミュニティ協議会名称

味方地区コミュニティ協議会

活動名称

味方地区ふるさと納涼まつり

世帯数

約 1,100 世帯

活動内容

味方地区コミュニティ協議会は、地区住民の自治意識の高揚を図り、コミュニティ活動を通じて、思いやりの心を育て、連帯感を持った住みよい環境づくりを推進することを目的に各種事業をおこなっています。

特にコミュニティ協議会が関わる事業のひとつ「味方地区ふるさと納涼まつり」は、味方地区の一大イベントとして味方地域全域を対象として、地域の市民が一堂に会し、まつりを通してコミュニケーションを深めることを目的に実施しています。

味方地区全域のまつりとして平成8年から始まり、味方地区野球場の広い芝生の上を会場に夏のひとときを満喫できる地域のまつりとして定着しており、平成18年度から味方地区コミュニティ協議会を主体とする実行委員会の主催で開催しています。

まつりは、焼きそばや農産物の販売などさまざまな出店販売の催し、特設ステージでの保育園児や地元チームなどによるよさこい演舞、歌謡ショーなどの盛りだくさんの内容となっており、このイベントの企画や運営には、コミュニティ協議会を組織する各種団体が積極的に参画し、まつりを盛り上げています。



実績・効果

区制移行後においても南区内の各種団体からもステージイベントに参加してもらっており、南区内の一体感醸成にも結びついています。また、毎年楽しみにしている方々も多く南区内外からの来場者もあり、平成20年度は7,000人を超す来場者がありました。各イベントへの参加や観覧にあらゆる年代の方が来場され、まつりを通して交流やふれあいが活発におこなわれ、地域の皆さんのつながりもより高まっています。

地域コミュニティ協議会名称

月潟コミュニティ協議会

活動名称

北海道月形町&新潟市月潟地区児童交流会

世帯数

約 1,020 世帯

活動内容

平成2年より、友好姉妹町村の北海道月形町と新潟市月潟地区の5、6年生児童が隔年ごとに訪問交流をしています。訪問先では、それぞれ2,3名に分かれホームステイを経験します。また、翌日の児童交流会では、学校紹介、マーチング演奏、ゲーム・レクリエーション、昼食会、名刺交換などを行っています。これらの体験活動を通して、それぞれの地域の特性や特産物、地理や歴史について学習し、集団行動をすることにより連帯感を習得しています。

この交流会を実施するにあたり、月潟コミュニティ協議会・月潟小学校PTAにより実行委員会を組織して、ホームステイ先の確保、交流会の企画・進行、保護者への説明などを行っています。まさに、手作りの交流会となっています。



到着式「月形町のみなさん、ようこそ！」ちょっと緊張気味…



凧揚げ体験の様子「それ、走れー！」

実績・効果

交流事業も19年目になりました。平成20年度の交流会では白根大凧合戦協会の皆様の協力で、凧揚げ体験を実施しました。ホームステイや、地元の子どもたちでもなかなかできない体験をして、貴重な思い出となったことと思います。たくさんの友達ができ、その後も子ども同士で交流が続いているようです。

また、実行委員会が中心となり、交流会の思い出や感想をまとめた文集も作成しました。児童たちから、楽しかった様子がうかがえる感想文が寄せられました。

地域コミュニティ協議会名称

内野コミュニティ協議会

活動名称

内野地区市民大運動会

世帯数

約4,480世帯

活動内容

当初は西地区公民館、その後内野地区自治連絡協議会の主催で行ってきたものを、23回目を迎えた平成20年度から当協議会的主催とし、西地区公民館や地域内外の団体等の協力を得て開催いたしました。

「広げよう友情の輪 高めよう地域の和」のスローガンのもと、15自治会に新潟大学の留学生チームを加えた16チームの老若男女約700名が参加しました。

内野小学校ブラスバンド部の演奏にのって、各チームの入場行進から始まり、年代別リレーなど11競技を実施しました。

日頃の運動不足を補う中高年の方、元気いっぱいの小学生など、チームのために一生懸命頑張る選手、その選手を一生懸命応援する参加者の姿は、チームの一体感・地域の一体感そのもので、すばらしい光景でした。

また、競技のほかに、昼食時には昔から伝わる「内野盆踊り」を新潟大学の協力を得て実施したところ、予想を上回る大勢の踊り子の輪ができ大変好評でした。



実績・効果

地域住民約700人が一同に集まり、楽しい時間を共有することで、地域の融和・地域の一体感が図られたほか、健康増進にも一役買っています。

地域挙げての一大イベントとして定着しており、今後も継続していきたいと思っております。

地域コミュニティ協議会名称

コミュニティ中野小屋

活動名称

瑞穂祭

世帯数

約 1,000 世帯

活動内容

中野小屋地区では、世代間及び地域間交流を目的に文化祭『瑞穂祭』を立ち上げて、平成20年で4回目を迎えました。そもそも瑞穂祭は、中野小屋中学校の伝統ある文化祭として行われていたもので、その文化祭にコミュニティ中野小屋が参加する形をとりました。中学校のスタイルを崩さず開催することに苦慮しましたが、中学校に隣接するJA新潟みらい中野小屋支店様の協力により、会場を中学校とJAの2会場とすることで解消しました。毎年10月の最終日曜日に開催し、JA会場の屋内では笠木小学校、小瀬小学校の児童の作品、地域の皆さんの絵や写真、書、生け花、手芸民芸作品などの展示、屋外では豚汁、もち、模擬店などの無料サービスや、菊会による菊の花の展示、JAによる農産物や花木の即売会などが行われております。中学校の会場では、中学生による伝統の文化祭が今まで通りに行われます。中学生の昼食は、JA会場で準備してあるので、昼食の休み時間を利用し地域交流を行っています。毎回、それぞれ500食分の無料サービスを行っていますが、好評で全て完食してしまうほどの盛況ぶりです。



実績・効果

中野小屋地区ではこの文化祭の他に、『親子三代ふれあい会』という行事が毎年行われます。こちらも目的は一緒で、総動員数600名以上が参加します。よって瑞穂祭による効果か一概には言えませんが、この地域の人たちは、「知りあう」、「ふれあう」、そういう交流の機会が多いせいも、世代間での屈託のない会話や、挨拶ができていると思います。

今後も途切れることのないよう、行っていこうと思っていますが、10代後半から20代前半の若者たちが、もっと参加してくれるように創意工夫していきたいと思っています。

地域コミュニティ協議会名称

コミュニティ佐潟

活動名称

佐潟まつり「こどもとうろう」

世帯数

約 1,850 世帯

活動内容

コミュニティ佐潟は、赤塚地区、みずき野地区と四ツ郷屋地区の3地区で構成されています。

コミュニティ佐潟の設立により、地域の一体感の醸成を図るため「佐潟まつり（旧称:赤塚まつり）」の協賛団体として、「赤塚地区自治連絡協議会」だけでなく、新たに「みずき野地区自治連絡協議会」と「四ツ郷屋自治会」も参加するようになりました。

まつりのイベントの一つとして、「こどもとうろう」を実施しました。「こどもとうろう」には、地元の赤塚小学校、木山小学校、赤塚中学校の児童、生徒約500名が参加し、将来の夢、想いを手作りとうろうに描いてもらい、赤塚消防団の協力を得て、まつり会場の佐潟公園に並べて点灯しました。とうろう作りには、子どもたちも参加しました。

平成20年は、「KODOMOラムサール国際湿地交流 in 新潟」に参加した子どもたちにも描いてもらい、約600のとうろうを並べました。



実績・効果

「こどもとうろう」は、とうろうを佐潟の湖面に浮かべる「万燈籠」と併せて行なわれました。とうろうを描いた児童、生徒やその家族も含め多くの方が、見に来てくれました。

ただ、まつりのボランティアが不足しているのが現状で、解決策を考えていく必要があります。

地域コミュニティ協議会名称

青山小学校区コミュニティ協議会

活動名称

有明ふれあい夏まつり

世帯数

約3,240世帯

活動内容

青山小学校区コミュニティ協議会は、有明地区と浦山地区が一緒になって、平成18年8月に設立され、従来それぞれの地域で行われてきた行事も、徐々に地区の人々が一体となって活動が行われるようになりました。

平成20年度は、まず5月31日（土）に浦山地区が中心となり、有明地区も参加し、関屋分水路に「西区・セキヤ分水」の花文字植栽と「とん汁お楽しみ朝食会」を行いました。

また8月23日（土）には、有明福祉タウンと有明地区自治協議会、青山地区民生児童委員協議会、青山小学校区コミュニティ協議会の共催で、浦山地区も参加して、「第10回有明ふれあい夏まつり」が行われました。

お祭りステージでは、開会式の後、施設の方々の「鬼太鼓」が始まり、新潟国体のマスコットキャラクターのトッキッキも駆けつけて、子どもたちも大喜びでした。その後、保育園の園児のお遊戯、児童センターの児童による踊り、有明ハイツ音楽クラブの演奏と続き、綿あめ、やきそば、ヨーヨー、フリーマーケットでのお買い物が始まりました。

日が暮れて、やぐらのまわりの盆踊り、フィナーレの花火大会と、1,500人の地域住民が一緒になって夏を楽しみました。



実績・効果

行事開催までの計画会議、ステージ作りからテント張り、その他の会場設営及び運営に至るまで、地域住民・関係団体皆さんの連携・協力が行事成功の喜びをもたらし、より一層地域の結び付きを深めることができた有意義な行事でした。

地域コミュニティ協議会名称

小針小学校区コミュニティ協議会

活動名称

地域ふれあいサロン「七夕祭り」

世帯数

約4,500世帯

活動内容

小針小学校区は、JR小針駅・青山駅を中心に、小針浜から西川流域に及ぶ地域です。概ね半世紀くらいの間に、田野は、主として住宅地域として急速な変貌を遂げました。我が国の少子化が進み児童生徒が急減する中で、小針小・中学校ともに児童・生徒数が増加傾向を続けており、小針中学校は、県内最大規模数となるなど特異な現象も見られます。一方で、高齢者世帯も増加傾向にあります。

こうした中で誕生した「地域ふれあいサロン」は、小針・青山公民館を活動拠点として、幼児・児童・高齢者等の“居場所づくり”を目指して活動しています。コミュニティ協議会の誕生を契機に、平成19年度から七夕祭りについて、両組織の共催となり、スケールアップと内容の一層の充実が図られました。

平成20年度は、7月5日（土）に開催されました。当初小さな笹枝で楽しんでいたものが、今では、天井に届くような太くて立派な笹竹が飾られました。短冊・カラーペン・飲み物・お菓子等々、子どもたちが楽しめそうなものを、会員で知恵を出し合い準備しました。

例年30名程度が参加するプランで実施していましたが、今年は、70名ほどの参加があり、大いに盛り上がりました。特にお父さんたちや小針中学校音楽部の参加で一層楽しい会になりました。

一生懸命短冊に願い事を書いている子どもたちは、本当に可愛いです。子どもたちの歓声が響き、沢山の短冊や飾り物で、笹竹が見事に華やかになり、七夕祭りは、幸せで一杯になりました。



実績・効果

幼児・児童・生徒・高齢者・父母など世代間交流が楽しく、幸せな雰囲気の中で進みました。地域の特性に即した課題解決へ、小さいけれども確かな歩みが見られました。

地域コミュニティ協議会名称

松野尾地域コミュニティ協議会

活動名称

「いろはの里」盆踊り大会

世帯数

約600世帯

活動内容

かつて松野尾地域では、地域固有の「はやおけさ」が伝統芸能として存在していましたが、近年、その歌や踊りを行うことがなくなっていました。地域ではコミュニティ協議会の設立を機に「はやおけさ」を地域のたからとして認識し、かつての地域の恒例行事であった「盆踊り」を復活させようとの機運が高まりました。

事業については、「地元学地域のたから発掘活用事業」を活用して、①「はやおけさ」の伝承 ②盆踊りの復活 ③世代間交流 の3点を柱に計画実施しました。

松野尾地域は古くから「良寛」様との交流があり、地域内の旧家には良寛書「いろは」「一二三」などが残されています。盆踊りは、この「いろは」を冠して、「いろはの里で盆踊り」としました。殺伐とした現代において良寛和尚の説かれた天地人、万物に対する「やさしさ・いとおしさ」を取りもどす良い機会になればと、地域住民総参加の姿勢で取組みました。

実行体制としてコミュニティ協議会の6部会（安全部会、福祉部会、子供部会、文化・スポーツ部会、生活環境部会、産業部会）が参画しました。平成20年は、お盆の帰省客も参加できるようにと8月14日に予定しました。



実績・効果

伝統文化の継承を通じて地域全体の連帯感や協働の醸成を図り、地域の活性化と癒しのある「松野尾づくり」を全体で推進しました。計画当日の8月14日はあいにくの雨模様であり、事業は翌日に延期になりました。その結果、参加者が予定より少なく、広報活動をもっと積極的にとの反省もありましたが、小学校の子供部会や保育園の保護者、外国からの研修生等の積極的な参加があり、心強く感じました。

毎年同じ日時で開催できるよう、また高齢化してきている「囃し手」部門等の育成強化が望まれます。

地域コミュニティ協議会名称

岩室地域コミュニティ協議会

活動名称

自然との共生「蛍と野外コンサート」

世帯数

約3,000世帯

活動内容

岩室温泉の丸小山公園周辺は、自然体系の豊かな地域として知られ、四季を通して多くの家族連れなどが訪れる姿が見られます。また、温泉街から徒歩で数分の所にある弘川では、毎年6月上旬から源氏蛍の乱舞が楽しめることでも良く知られています。

こうしたことから、この恵まれた自然環境の中で音楽や蛍の鑑賞を通して喜びや感動を大勢の方から味わっていただくこと、毎年「蛍と野外コンサート」を開催し、丸小山に響き渡るステキな音色を楽しんでいますが、今では地区内外から約800~1,000名が訪れる大きなイベントとなり、地域活性化に一役かっています。

しかし、これだけに終わらないのが岩室の地域力。

〈自然との共生〉をうたう中で、地域のボランティアや婦人会が中心となって「車椅子ボランティア」が組み込まれていることが、この「蛍と野外コンサート」の大きな特徴ともなっています。岩室には、「温泉病院」や「かたくりの里」など病院や施設がまとまっていますが、入所されている方々にも是非この感動を味わっていただきたいと、当日は80名からの地域ボランティアが一斉に協力体制を組み、車椅子を押して一緒に音楽に親しみ、多くの患者さんから楽しんでいただいています。

こうして、地域の一人ひとりの「思いやり」の心も手伝って続く岩室の「蛍と野外コンサート」です。



実績・効果

蛍の生息に適した自然環境の中で乱舞する見事な蛍の世界と併せて、丸小山に響き渡る音色に魅了され、地区内外から年々多くの観客を迎えるようになっていきます。

このように、岩室に残る素晴らしい自然環境を多くの方々に知っていただく機会につながっていると考えます。

また、「車椅子ボランティア」等が関わることで、地域の結束力が高まり自分たちの住む地域を改めて認識することにもつながっているようです。

地域コミュニティ協議会名称

潟東地域コミュニティ協議会

活動名称

かもん！カモねぎまつり

世帯数

約 1,500 世帯

活動内容

かつて、鑑潟ありし頃より潟東地域においては、先人たちによりカモ猟と漁業が盛んに行われ、現在も冬場になるとカモ猟が受け継がれており、捕れた野ガモをつかってのカモ汁の紹介と、潟東地域の特産品の販売、誘客を目的にしたユニークなイベント「かもん！カモねぎまつり」が毎年12月第一日曜日に開催され、地域おこしの一環を果たしています。

平成18年に「潟東地域コミュニティ協議会」が発足し、このイベントを引き継ぐこととなり協議をかさねた結果、地域の各種団体に呼びかけて実行委員会を立ち上げ企画、運営にあたりました。そして、実行委員会に5つの部会を設け役割分担を決めました。

☆総務部会 総括、宣伝、チケット販売 他

☆カモねぎレストラン部会
カモ汁2,000食の下ごしらえ、
煮込み、配膳 他

☆催しもの部会 カモ猟の実演（寸劇）、
ラジコンヘリの展示 他

☆販売部会 地元産の農産品販売 他

☆フリーマーケット部会 出展者の募集 他

各部会では、イベントを盛り上げるための話し合いがなされ、当日に向けた準備も進み、1人でも多くの方々に参加をいただき潟東の「かもん！カモねぎまつり」を盛り上げていくため、スタッフ一同一丸となって取り組みました。



実績・効果

今では、潟東といえば「カモねぎまつり」だといわれ、多くの方々からイベントに参加をいただき地域の人々との交流が図られています。

これからは、地域の連帯感を強め、よりいっそう農業を主体とした地域づくりをめざします。